

ITが東北地方復興に貢献

NPO法人 I G D A 日本

NPO法人 I G D A 日本 上げるイベント「東北IT (本部東京・調布市) は、福島県南相馬市と郡山市において8月3・4日の2日間、プロとアマチュアの共同作業によって30時間でゲームを作り

や見学者のためのセミナーやワークショップも行う、国内外から高い評価を受けているイベントだ。今年は南相馬市に加えて郡山市にも会場を開設。福島県における広域開催が実現した。

当日は、メイン会場のほか、に東京や名古屋など国内の各地や、台湾、南米のコロンビア、チリなどの海外にもサテライト会場を設置。14会場で計531人が参加した。

メイン会場の一つである南相馬市民文化会館「ゆめはつ」とには、ゲーム開発に興味を持つ首都圏や仙台からの学生らを中心に約50人の参加者が詰めかけた。



7人前後のチームを編成し、ゲーム制作に熱中した

今回のイベントの主な目的は、①震災被災地のいまの状況や、復興に向けた取り組み・その力強さについて国内外に発信すること②次世代を担う子どもたちや若者への教育プログラム提供によって風評被害を受けることのないIT分野における人材育成③新たに郡山市にも会場を設定することによって、南相馬市という「点」から福島県という「面」に開催地を広げ、ITクラスター実現の礎とすること——の三つだ。

同イベントでは、毎回ゲームの開発テーマが定められている。今回のテーマは、飛躍を表す「jump」。テーマとは別に、「子どもたちが描いたイラストをゲーム内に取り込む」「タブレットでも遊べるようにする」「オフラインでもゲームが楽しめる」などの、必須ではないが、ゲーム内に取り込む要素も提示された。

アマチュアのゲーム開発者はプロの開発に直接参加することができ、言語化が難しい暗黙知を効果的に体得すると共に、ゲームを作る楽しさを共有する良い機会となったようだ。